

大人用



伝道地便り

2019年 第4期 南太平洋支部

- | | |
|---------------------|----------|
| 第1話「片足になって 25 人の救霊」 | ケニア |
| 第2話「ドレッドヘアの息子と父親」 | 南スーダン |
| 第3話「バスの中の説教者」 | ウガンダ |
| 第4話「お金が残らない会計士」 | エチオピア |
| 第5話「児童養護施設を建てた孤児」 | コンゴ民主共和国 |
| 第6話「お腹がひどく痛いのに！」 | コンゴ民主共和国 |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 片足になって 25 人の救霊

ケニア



フィリス・オディンド 45 歳

フィリス・オディンドの右足を、鋭い痛みが走りました。2017 年のことでした。

痛みはどんどんひどくなり、耐えられなくなったフィリスはケニアのキスムにある国立病院へ行きました。しかし、フィリスを助けてくれる人は誰もいなかったのです。病院の医療スタッフたちがストライキを起こしていたのです。

お金もなく、選択肢もほとんど無かったフィリスは、小さなクリニックに助けを求めました。クリニックには、レントゲン写真を撮るための医療機器也没有。診察後、医者からは足を切断するように勧められました。

フィリスは夫を亡くし、まだ若い息子が 1 人います。足を失いたくはありませんでした。そこで、その日は何もせず帰ることにしました。けれども、痛みはまったく治まりません。結局クリニックへ戻ることになり、膝からすぐ下を切断することになりました。

手術をしてから 3 週間後、フィリスの体調がひどく悪くなりました。動けないのです。

そこで、レントゲン写真を撮るために国立病院へ行きました。すると、足の傷が腐り始めていると宣告されたのです。そして、膝の上まで侵食が広がっていたのです。医者は、同じ脚をもう一度切断しなければいけない、と言いました。

手術後、フィリスは入院することになりました。しかし健康がひどく損なわれ、すべての望みを失ってしまったのです。そして、ケニア・セブンスデー・アドベンチスト教会の女性会会長であるアンナに連絡をしました。

一目見て、アンナはフィリスが瀕死の状態だと確信しました。そして、フィリスのために祈ったのです。祈りが終わると、フィリスは力が戻ったように感じ、自分のために祈り続けてほしいとアンナに頼みました。アンナは祈ると約束し、飲み物をフィリスに渡しました。

翌日、アンナは病院に教会の女性数人とやってきました。そして、翌日も、さらにその翌日もやってきたのです。教会の牧師や長老もフィリスを励まし、また祈るために訪問してくれました。

病院のベッドの上で、フィリスは祈りました。「神様、どうかわたしを憐れんでください。私にはたったひとりの息子がいるだけです」

女手一つで育て上げた息子は、11 年前に夫が亡くなったあとにアドベンチスト教会を去っていました。息子は、亡き父親の親戚に対して怒っていたのです。父亡きあと、母親の家や財産を奪われてしまったからです。ケニアのある地域では、妻が夫の健康に対して責任があると考えられており、夫が亡くなると妻が責められるのです。フィリスの義理の家族は、夫が死んだことで彼女を責め、財産をすべて奪っていったのです。

フィリスが入院していた 3 か月間、教会員は

毎日彼女を訪問し、医療費の支払いや健康保険に入るのを助けてくれました。

借家に戻ったあとも、教会員が定期的にやってきて、生活に必要な事を手伝ってくれました。

そして、素晴らしいことがおこったのです。8人の病院患者が、バプテスマを受けたいと言ってきたのでした。教会の友人たちのフィリスに対する思いやりにとっても感動し、ぜひ彼女たちの教会に加わりたいと思ったのです。それから、フィリスの近所に住む7組の夫婦もバプテスマを受けたいと言い出しました。この人たちも教会員の心のこもった奉仕に心を動かされたのです。それから、フィリスの母親が国の反対側から娘に会いにやってきました。するとケニア教会の女性会が、フィリスのためにサプライズの祈祷朝食会を彼女の家で開いてくれたのです。キリスト教の別の宗派の忠実な教会員だったフィリスの母親はとても感動し、自分もアドベンチスト教会員になりたいと宣言しました。そして、母親とフィリスの姉妹の1人もバプテスマを受けたのです。

さらに嬉しかったことは、フィリスの息子が2018年にケニア教会でバプテスマを受け、結婚式も上げたことでした。

フィリスが脚を失ってから、合わせて25人がバプテスマを受けました。そして、フィリスはこれを素晴らしい交換だと思っています。

「神様を賛美しますよ。足が切断されたことによって、息子が教会に戻ってきてくれたんですもの」と言います。「脚は一本になっちゃったけど、この出来事を通してたくさんの霊的祝福を私と家族は受けたんです。そして、25人も人が神様に導かれたのよ」

今期の13回献金の一部は、フィリスの地元、キスムにセブンスデー・アドベンチスト病院を建てるために用いられます。ケニアの人々の身体的・霊的健康促進に繋がる、みなさまの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・フィリスの大好きな歌、『希望の讃美歌』181番の「けわしき世の旅に」を歌いましょう
- ・フィリスの大好きな聖句、詩篇 23 編を読みましょう
- ・このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日（このお話は 10 月 5 日）の 6 日前、日曜日にアップされます。
- ・高画質の写真は、ADAMS データバンクからダウンロードできます。[Bit.ly/one-leg-25](https://bit.ly/one-leg-25)
- ・13 回献金プロジェクトの高画質な写真を ADAMS からダウンロードできます。[Bit.ly/ECD-projects-2019](https://bit.ly/ECD-projects-2019)

宣教メモ

- ・ケニアを訪れた最初のセブンスデー・アドベンチスト宣教師はカナダ生まれで、1906 年に英国からやってきた A.A.カースカレンという人でした。14 か月以内にカースカレンは伝道の拠点となる建物を建て、ルオ族の言葉を学びました。ルオ語は文字に起こされたことがない言語で、カースカレンは後にマタイによる福音書をルオ語に翻訳しました。1913 年に英国聖書協会から出版の許可が下りました。
- ・東アフリカにあるアドベンチスト大学のバラトン (UEAB) は 1980 年に設立されました。そして、ケニア政府に使用された最初の私立大学になりました。UEAB にはビジネスコース、教育、健康科学、そして科学と工業の大学と大学院があります。

2. ドレッドヘアの息子と父親 南スーダン



マイケル・クジュー 38 歳

マイケル・クジューは、父親を憎んでいました。「お父さんは？」と時々聞かれても、いつも「死んだ」と答えていました。それほど父親を憎んでいたのです。

マイケルが9歳の時、ウガンダで両親が離婚しました。その後しばらくの間、マイケルは父親の農場へ通っていましたが、いつもこき使われていたのです。毎日の仕事が終わっても、父親は食べ物さえくれません。マイケルは、自分がいいように使われていると感じました。

ある日父親のところから帰ってくると、マイケルは母親にこう言いました。「もうパパと一緒にはいられないよ」。そして、農場には二度と行きませんでした。それでも、父親に対する^{にがにが}苦々しい思いを忘れることはできなかったのです。生活は厳しく、マイケルは父親を^{うら}怨みました。もし父親が家族を捨てなければ、生活はこんなに厳しくはなかったでしょう。

お金のないマイケルは、2年生を終えると高校

を中退してラッパーになりました。ケニアへ引越し、ナイトクラブで2年間働きながら髪も伸ばして長いドレッドヘアにしました。それから叔父が南スーダンへ呼んでくれたので、ヒップホップの活動をジュバのナイトクラブに移したのです。

ある日ジュバの街を歩いていると、とある店のオーナーに呼びかけられました。

「礼拝はどちらでされていますか？」

マイケルは立ち止まり、

「礼拝なんかしねえよ」と答えました。

「なぜですか？」

「俺を見ろ」と長いドレッドヘアを指さしながら言います。「教会に行けると思うか？」

「ええ、行けますとも」とオーナー。

オーナーが礼拝している教会はどこか訪ねると、ジュバ・セブンスデー・アドベンチスト中央教会だということがわかりました。

「奴ら、嘘っぱちの祈りとにせの癒しをやっている連中だろ」とマイケルは言いました。

オーナーから教会に誘われましたが、マイケルは断りました。

次にその店の前を通った時は、オーナーに呼びかけられても反対側を向いて通り過ぎました。しかしそのあとも、オーナーはマイケルを見かけると話しかけてきたのです。

「3週間の伝道講演会を来週の土曜日から始めるんですよ」とオーナー。「よかったらいらっしゃいませんか？」

講演会に行ったマイケルは、神に対する単純で素直な祈りが気に入りました。さらに牧師は第7日安息日について話し、神様が安息日を土曜日から日曜日に変えたことは一度もないことを、聖句から見せてくれたのです。

マイケルは家で聖書を注意深く読み、安息日は土曜日だと確信しました。

そして講演会の最後の安息日、マイケルはナイ

ル川でバプテスマを受ける他の数名に加わったのです。ドレッドヘアについて何か言う人は、1人もいませんでした。

しかし教会に通い始めると、自分の髪形に対する批評が聞こえてきました。

「もうバプテスマを受けたのよ」「髪を切りたいと思わないの？」と教会員。

「なんで切る必要がある？」とマイケルは答えました。「サムソンだって髪を切らなかったじゃないか。この髪型でも問題ないさ」

「でも、髪型のせいで周りから変な目で見られてるのよ」と教会員。

「関係ないね」とマイケル。「俺たちは人を裁くべきじゃないんだ」

しかし、マイケルにも何かがおかしいことはわかっていました。いろいろな教会で証をするとき、いつもこう話し始めました。「見た目で怖がらないでください。私はみなさんと同じ教会員です。」

マイケルは心の中で、アドベンチストから本当に受け入れられたのか知りたかったのです。何年も前に父親からされたように、アドベンチストも自分の目的のためにマイケルをいのように使おうとしているのでしょうか？ しかし1年が過ぎ、マイケルは教会員が自分を愛してくれていることに気が付きました。教会は我が家なのです。そして、ドレッドヘアをバッサリ切りました。

同時に、自分の父親についても思い出していました。マタイ6章15節にこう書いてあったのです。「しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」

マイケルは祈りました。「主よ、あなたの御心ですから、そのとおりになりますように。どうか赦すことを教えてください」

父親の電話番号を探し出すのに、3カ月かかりました。マイケルは父親が怒っているのではないかと予想していましたが、そうではありませんでした。

「誰だ？」と父親は言いました。「マイケルか？」

「ああ、そうだ」とマイケル。「今まで何があったか説明するのは難しいんだけど」

「気にするな」と父親は答えました。「そんなこ

とはどうでもいい。ただお前に息子として戻ってきてほしいだけなんだ。戻ってこれるときに家に帰ってこい。待ってるからな。」

30年のあいだ抱え続けてきた憎しみが、マイケルの心から消え去っていきました。

「自分は、父親を生涯憎み続けるんだと思っていました」と38歳になったマイケルは言います。現在は運転手として働き、様々な仕事をジュバでしています。「でも、セブンスデー・アドベンチスト教会で聞いた説教によってすべてが変わったんです。この教会は、本当に人々を天国に備える働きをしています」

みなさまの献金を感謝いたします。2016年の13回献金はジュバ・セブンスデー・アドベンチスト中央教会に子どものための安息日学校教室を建設するために用いられました。マイケルが安息日に礼拝している教会です。今期の13回献金の一部は、その教会の近くに高校を建てるために用いられます。2017年初めのある日、ジェフは自分の会社の従業員で製図技術者のヘリックに話しかけました。

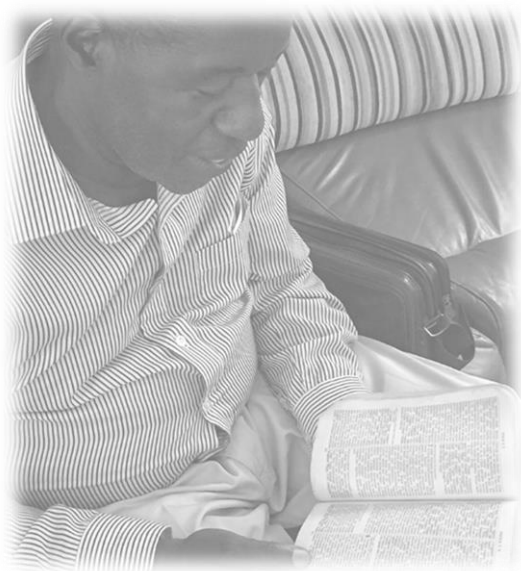
〈お話のヒント〉

- ・このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日（このお話は10月19日）の6日前、日曜日にアップされます。

- ・高画質の写真は、ADAMS データバンクからダウンロードできます。[Bit.ly/Dreadlocks-and-Dad](https://bit.ly/Dreadlocks-and-Dad)
- ・13回献金プロジェクト（伝道計画）の高画質な写真をADAMSからダウンロードできます。bit.ly/ECD-projects-2019

3. バスの中の説教者

ウガンダ



サムエル・エンダジジマナ 59 歳

バスで通勤するとき、ある人は本を読み、またある人は携帯でゲームをします。

でも、サムエル・エンダジジマナがするのは説教です。

毎朝、サムエルはイエス様のこと、そしてイエス様がもうすぐ帰ってこられることをルワンダの首都であるキガリに行く途中に話しています。

ただ、自分の言葉が聞いている人たちに影響を与えているのかサムエルにはわかりませんでした。

ある日、キガリの通りで女性に話しかけられるまでは。

「牧師先生、ちょっと待ってください」

サムエルは牧師ではありませんでしたが、いつもバスで説教をしていたので間違えられることには慣れていました。サムエルは立ち止まると、いぶかしげに女性を見ました。

「あなたを存じ上げないと思うのですが」とマイケル。「以前お会いしたことがありますか？」

「いつも素晴らしい働きをされていますが、気がついていらっしゃらないのかもしれませんが」

と女性。「バスでお会いしたんです。先生は、私が抱えていた問題についてお話されていました」

そして、サムエルが神様を第一にするという説教をした日のことを思い出させてくれました。

「先生は、『会社に着いたら、予定の中で神様を第一にしましょう。話す中でも、神様を第一にしましょう。何をするにも、神様を第一にしましょう。』とおっしゃったんです」

そして、女性はこの説教を聞いたとき、会社に着き次第重要な決断をすることにしたのでした。

「会社で本当に難しい問題に直面していたんです」「会社に着くと、跪いて祈りました。『神様、今朝説教をしていた神様の人は、あなたを第一にしなければいけないと言っていました。どうぞあなたを第一にできるように私を助けてください』」

祈り終わると、彼女は自分が力づけられたように感じました。そして、上司に何と答えればいいのかわかったのです。

数時間後、上司が職場にやってきました。そして彼女の机にまっすぐにやってくるとこう言ったのです。「いつなら良いかね？」

「私は行けません」と女性は答えました。「理由は3つあります。第一に、私は既婚者です。夫を裏切ることとはできません。第二に、私はクリスチャンです救い主に対して罪を犯すことはできません。第三に、私は教会のリーダーの一人です。周りの人の模範にならなければいけません」

上司は衝撃を受けました。

「今までどれだけ誘っても、『はい』とも『いいえ』とも言わなかったじゃないか」「どういうつもりだ？ プロポーズを聞いたよな？ それなのに今まで何の決断もしなかった」

そして怒りで目を細め、「お前は首だ」と怒鳴ると部屋を飛び出していきました。

女性は懸命に涙をこらえて祈りました。首には

なりたくありません。「神様、職場であなたを選びました。あなたを第一にしました。もし首になっても、どうぞ私の子どもを養ってください」と祈りました。

正式に首になるには、上司から解雇状が届かなければなりません。でも、解雇状は翌日にでもすぐ届くと思っていたのにもかかわらず、何も届きませんでした。2日が過ぎ、まだ届きません。そしてその日の晩、テレビのニュースでその上司が解雇されたことを知ったのです。彼女は泣いて神様を賛美しました。

女性は通りで出会ったサムエルに言いました。

「首になるはずでしたが、まだ働いています。私は上司が首になったから神様に感謝しているのではありません。神様を第一にする人を守ってくださったことに感謝しているのです。」

サムエルはバスでの説教をし続けようと決心しました。通りでも時々説教をします。しかし何よりも、サムエルは言葉を使わずに説教をしようとしています。神様の助けによって、外見や行動によってキリストを他の人に証しているのです。

世界中の教会員たちも、2016年に言葉を使わずに説教をしました。キガリの中央アフリカ・アドベンチスト大学に医大を開くために13回献金が出られたのです。サムエルは医大にとっても感謝しています。教師と学生がルワンダに福音を伝える助けとなっている場所なのです。

〈お話のヒント〉

お話のヒント

- ・このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日(このお話は11月9日)の6日前、日曜日にアップされます。

- ・高画質の写真は、ADAMS データバンクからダウンロードできます。[Bit.ly/Bus-Preacher](https://bit.ly/Bus-Preacher)

- ・13回献金プロジェクトの高画質な写真をADAMSからダウンロードできます。bit.ly/ECD-projects-2019

宣教メモ

- ルワンダの宣教の働きは、第一次世界大戦の直後にベルギーからの若い働き人、D.E.デルハブによって始められました。1914年に戦争が始まると、デルハブはベルギー軍に召集され、のちにルワンダとなる東アフリカの地域で、ベルギー軍の事務をして働きました。終戦後、デルハブは家族とともにこの未開の地への宣教師として任命されたのです。デルハブは伝道本部を建てるための敷地を探し、505,857平方メートルの区画が与えられました。ニャンザの町から北へ18キロ行った頭蓋骨の丘として知られている小高い尾根です。迷信深い地元の人たちは、その場所を避けていました。ルワンダの王様に呪われた場所だと信じていたからです。ここに、ギトウィ・ミッションの基礎が据えられました。

豆知識

- ルワンダは国会を占める女性議員の割合が一番高い国です。国会議員の60%以上を女性が占めています。

4. お金が残らない会計士

エチオピア



マーサ・エタナ・チュワタ 45歳

マーサ・エタナ・チュワタは大きな問題を抱えていました。

マーサはエチオピアの首都、アディスアベバの銀行で高い給料をもらっていましたが、毎月給料日前にお金はすっかり無くなってしまうのです。

マーサは会計士で、出費は計画的にするよう気を付けています。給料が振り込まれると、まず什一を献げます。その次に小さな借家の家賃を支払い、それからパンを焼くための白いテフ粉、オリーブオイル、調味料、そして服や靴を買っていました。

しかし月の最後の週はストレスがたまります。お金が無いため少なめに食べ、物が無い状態で過ごすなければいけません。貯金できるお金もありませんでした。

それから同僚の会計士と結婚することになり、毎月の生活費を2人で出すことになりました。しかし、それでも月末にはお金が無くなってしまうのです。

「なぜ私のお金は神様に祝福されていないのか

しら？」マーサは不思議に思いました。すると、あることが頭に浮かんできたのです。「ひょっとすると」彼女は思いました。「神様の聖なる日に働いているから、私のお金は祝福されていないのかもしれない」

考えれば考えるほど、マーサは神様に「なぜ安息日に働いているのですか？もし私の戒めを守るなら、お金は祝福されますよ」と言われているように感じました。

マーサはセブンスデー・アドベンチスト教会員の両親と安息日学校に通っていたころを覚えていました。しかし、21歳の時に銀行から内定を受けた時に教会に行くのを止めたのです。エチオピアでは週6日勤務で、ほとんどの会社が営業しています。マーサは貧困家庭で育ったので、銀行の高給は魅力的だったのです。

マーサは子どもの時に安息日学校で習ったとおり、いつも什一を献げていました。時には銀行が終わってから安息日の午後教会により、牧師にお金を渡していました。ほかの時は、献金を封筒に入れて教会に通っている友達に渡していました。

しかし、什一を忠実に献げていても家のお金は底をつき続けています。

マーサは神様に助けを求めました。「神様、どうぞ安息日に働かなくても良い仕事を与えてください」と祈ることにしたのです。

そして、1か月間毎日祈り続けました。

でも、何も起きません。

「仕事を止めさせてほしいの」とマーサは夫に言いました。「私は神様に従っていないわ。だからお金が無くなり続けているのよ。神様が祝福してくださったら、あなたのお給料で十分やっているとと思うの」

「そうだな、仕事をやめたほうがいい」と夫は言いました。夫もアドベンチストで、長い間マー

サに安息日に働くのをやめてほしいと思っていたのです。

ところが、マーサは仕事を止めませんでした。その代わり、働き続けながら、新しい仕事を与えてくださいと祈り続けたのです。

2年が過ぎ、マーサはこれ以上働くことができなくなりました。毎日の一瞬一瞬、心に語り掛けている声が聞こえるように感じるのです。「今が仕事を止める正しい時ですよ。今が仕事を止める正しい時ですよ。今が良いタイミングです」考えることができなくなったマーサは5日間断食して祈り、とうとう銀行に退職願を出しました。

支店長はがっかりしました。マーサは素晴らしい銀行員だったので、彼女に止めてほしくなかったのです。そして時々であれば土曜日に休めるようになる新しい役職を彼女に提案しました。

しかし、マーサは少しもゆらぎません。長年神様に背いてきたので、今が神様に忠実に従う時なのです。

銀行を出たとたん、マーサの心は平和と喜びに満たされました。こんな気持ちになったのは、13年前に銀行で働き始めて以来初めてでした。

そして1か月が過ぎ、彼女と夫のお金は初めて底を突かなかったのです。夫婦は衝撃を受けました。

「今日から、神様を信じるわ。あなたのお給料は私たち2人にとって十分だとわかったのですもの」マーサは夫に言いました。「神様が私たちを養ってくださるわ」

夫婦はお金の使い方を変えたりはしていません。いまだに白いテフ粉、オリーブオイル、調味料、素敵な洋服と靴を買っています。でも、お金は無くなりません。

「お金がどこから来ているのかわかりませんが、私たちの家庭はとても祝福されています」とマーサは言います。「神様に従うのは、お金もうけよりずっと良いことなのです」

今期の13回献金の一部は、エチオピアに子どもたちの安息日学校の教室を作るために用いられます。マーサが小さいころ学んだように、安息日や什一の大切さをもっと多くの子どもが学べるようになるのが目的です。13回献金へのご協力を感じたいと思います。

宣教メモ

- マーサが安息日のことでもがいていたとき、許しの約束と詩編 103 章の1節から3節の祝福により頼んでいました。「【ダビデの詩。】わたしの魂よ、主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって／聖なる御名をたたえよ。わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し」と書いてあります。
- マーサは新しい仕事を見つけられませんでした。代わりに、家のことをしっかりとして自炊もすることにしました。そして地元の教会で活発に活動を始めました。刑務所伝道や祈りの伝道、聖書研究のグループ、毎週の青年のプログラム、病気の人や高齢者の訪問、健康プログラム、金曜日の晩の礼拝などです。
- このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日(このお話は12月7日)の6日前、日曜日にアップされます。
- 高画質の写真は、ADAMS データバンクからダウンロードできます。
[Bit.ly/Accountant-Without-Money](https://bit.ly/Accountant-Without-Money)
- 13回献金プロジェクトの高画質な写真をADAMS からダウンロードできます。
bit.ly/ECD-projects-2019

5. 児童養護施設を建てた孤児

コンゴ民主共和国



パトリック・ケヤンド・オマグメ 32 歳

魔術師と呼ばれたことがありますか？ パトリック・ケヤンド・オマグメの母親が亡くなったとき、みんな 14 歳の彼を魔術師と呼びました。

パトリックは 9 人兄弟の長男で、コンゴ民主共和国の首都、キンシャサに住んでいました。家計を支えていたのは母親で、彼女が突然亡くなるとパトリックにその責任が負わされました。

パトリックは働くことができないので、家から家を回って物乞いをしました。しかし、近所の人たちはパトリックが魔術師だと信じていたので助けてくれません。1 年後、パトリックは児童養護施設に入れられました。そこで食べ物もらい、教育を受けたのです。しかしパトリックが 21 歳のときに施設は閉じてしまい、気がつくとき昔いた所に戻ってきてしまっていました。「魔術師が戻ってきた」と人々はささやきました。

次の 2 年間はパトリックにとって最もつらいときでした。パトリックはビニール袋に飲み水を貯め、それを道で売ろうとしました。そしてマンゴーの木の下で人生について何時間も考えました。将来は絶望的に見えました。

その中で唯一良かったのは教会でした。母親がアドベンチストだったので、パトリックは毎週安息日に忠実に教会に通っていたのです。

ある安息日、アドベンチストの医者であるジャック・キャベルによって若者のために集会が開かれました。そして、実現可能であれば小さなビジネス計画を持つ人を誰でも助けてくれると言ったのです。パトリックはネットカフェを開きたいと言いました。

ジャックはネットカフェを開くにはお金がかかりすぎると言いましたが、創業資金として 50 ドルを提供すると言ってくれました。

どうすればいいか迷ったパトリックは、お金を教会の長老に見せました。

「何をするにしても、まずは什一を献げないといけません」と長老は言いました。

パトリックは「長老は僕に反対しているんだろうか？ お金がないのに、什一を献げるように言うなんて」と思いました。

しかし長老が聖書から什一についての聖句を読んで聞かせると、パトリックはすぐに 5 ドルを長老に手渡したのです。長老はパトリックのために祈り、「神様が共におられるように」と励ましてくれました。

さあ、パトリックの手元には 45 ドル残っています。しばらく考えた後、パトリックは大きな傘とテーブル、そして発信しかできない壊れた携帯電話を 2 つ買いました。そして通りにテーブルを広げると、「公衆電話」という看板を出したのです。電話を使いたい人たちがパトリックにお金を払うシステムでした。

近所の人々は、絶対に失敗するに違いないと言いました。

「一体どんなビジネスなんだよ？」、「成功する

はずがない」と言ったのです。

出店後、パトリックが稼げたのは1日2ドル50セントだけでした。そこでバイクを借り、夜はタクシー業も始めました。しばらくすると300ドル貯めることができたのです。

ある日、パトリックはビジネスをしている人たちに牧師がキンシャサの伝道講演会を支援してほしいと訴えているミーティングへ参加しました。今になっても、パトリックはなぜ自分がそこで200ドル払うと約束したのかさっぱりわかりません。

近所の人はパトリックがバカだと思いました。

「どうしたら200ドルもあげられるんだ？」と言ったのです。「一体自分がどんな仕事をしていると思っているんだよ？」

1カ月後、パトリックはあれは失敗だったのではないかと心配になってきました。

ある日、パトリックが携帯電話のテーブルに立っていると見知らぬ人が歩いてきて120ドルでパソコンを買わないかと行ってきました。パトリックはパソコンが商売を広げる助けになると思いましたが、80ドルしかありません。パソコンを売りに来た人は、80ドルでは譲れないと去っていきました。しかし少しすると、その人は戻ってきて80ドルでパソコンを売ってくれたのです。

翌日、別の見知らぬ人が急いでパトリックのテーブルにやってきました。そして「誰かパソコンを売っている人を知らないか？」と言うではありませんか。「友達がパソコンを買いたいと言っているんだ。600ドル出すと言っている」

パトリックはその人の友達の家まで一緒に行きました。パソコンが作動するかの確認後、いくらか聞かれたので「600ドルだ」と答えました。

「550ドルなら買おう」と言われたので、パトリックは「売った！」と言いました。

家から帰りながら、自分の身に起こったことが信じられません。パソコンを80ドルで買ったのに、翌日550ドルで売れたのです。その分の什一を取り分けると、パトリックは携帯電話のテーブルを木製の屋台に格上げし、両替サービスも始めました。商売は繁盛し、すぐに週300ドルから400

ドルもうかるようになりました。そして収入は2,000ドルまで増えたのです。

パトリックは昔住んでいたところに児童養護施設を建てました。

現在、パトリックは児童養護施設で妻と一緒に子どもを6人育て、施設の敷地内で小学校も運営しています。ストリートチルドレンには無料の食事を提供し、教会では伴侶が亡くなった人で実現可能な小さなビジネス計画を持っている人に50ドルを提供しています。

近所の人はもうパトリックを魔術師だとは呼びません。

「人々から魔術師と呼ばれてきました」とパトリックは言います。「でも、神様は私を神様の子だと示してくださったのです」

みなさまの2016年13回献金へのご協力感謝いたします。当時の13回献金はパトリックが通っている教会も含めた3つの教会に子ども安息日学校の教室を作るために用いられたのです。今期の13回献金の一部は、キンシャサ・アドベンチスト・クリニックのために用いられます。

〈お話のヒント〉

・YouTubeでパトリックの動画を見ることができます。[Bit.ly/Patrick-Omughamay](https://bit.ly/Patrick-Omughamay)

・このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日(このお話は12月21日)の6日前、日曜日にアップされます。

・高画質の写真は、ADAMSデータバンクからダウンロードできます。

[Bit.ly/Orphan-Buys-Orphanage](https://bit.ly/Orphan-Buys-Orphanage)

・13回献金プロジェクトの高画質な写真をADAMSからダウンロードできます。bit.ly/ECD-projects-2019

豆知識

コンゴ民主共和国は、1971年から1997年までザイールとして知られていました。

6. お腹がひどく痛いの！

コンゴ民主共



フランク・ンバンガ・ムディム 39 歳

ニッキー・マッシーレ・ンバンガ 34 歳

ニッキー・マッシーレ・ンバンガは、夫を死にもの狂いに呼びました。フランクはキンシャサ・セブンスデー・アドベンチスト・クリニックで看護師として働いているのです。

「痛い」とニッキーは叫びました。「お腹がひどく痛むわ」

ニッキーは妊娠8か月です。4年間子どもが欲しいと祈った結果やっと授かった赤ちゃんだったのです。

フランクがクリニックの医者相談すると、痛み止めを飲み、もし痛みが続くようだったらクリニックにすぐ来るよう言われました。

そして、その晩痛みが戻ってきたのです。ニッキーは疲れて衰弱していまい、立つこともできません。フランクが医者連絡すると、ニッキーを連れてくるように言われました。

クリニックでは、ニッキーの失血が多いためすぐに輸血をしなければならないと診断されました。

そしてもっと大きくて設備のしっかりしている病院に移ることを勧められたのです。

でも、フランクには大きな病院に行くお金がありません。フランクは看護師として妻が危機的状況にあるとわかっていましたが、医者に最善を尽くすように頼みました。

医療スタッフはニッキーをクリニックにある唯一の手術室に連れて行きました。質素な手術台と手術器具が乗った金属製のカートが置いてある狭い場所です。

フランクが病室を出ていこうとすると、医者が輸血のためにニッキーの静脈を見つけるのに苦労しているのが見えました。

廊下では、医者と看護師が励ましてくれました。

「心配するな」と1人が言いました。

「神様が助けてくださるわ」ともう1人。

フランクにはスタッフがニッキーのために祈ってくれているのが見えました。そして、フランクも祈り続けるよう言われたのです。

「手術は順調よ。でも祈り続けないとだめ」と看護師は言いました。

フランクは神様が介入してくださると信じていました。そして誰もいない部屋へ行きひざまずいて祈ったのです。「神様、妻は家族にとって特別な人です。もし私を助けたいと思ってくださっているのでしたら、どうぞ妻を助けてください。ニッキーの両親はアドベンチストではなく、アドベンチストの病院で処置を受けていることを知っています。もし彼女が命を落としたら……」フランクの声は尻すぼみになって消えました。

クリニックは手術を助けるために専門医を招集しようとしていました。しかし、専門医が到着するのに1時間かかると電話で言われたのです。医者はニッキーがそんなに持たないことがわかっていたため、すぐ手術を始めることにしました。クリニ

ックには必要な手術器具が足りませんでしたが、最善を尽くすしかありません。

手術器具を消毒し始めると、停電が起きました。しかし、手術を止めるわけにはいきません。消毒は伝統的な方法で行うしかありませんでした。火で器具をあぶったのです。

医者がニッキーのお腹を開くと、どこも血でいっぱいでした。遅すぎたのです。赤ちゃんの心臓はすでに止まっていました。

次はニッキーを救わなければいけません。ニッキーは息をしようともがき、医者は彼女の命を救うために戦いました。やがて状態は落ち着き、フランクは部屋に呼ばれたのです。

ニッキーは合併症もなく、無事に回復しました。切開した場所も感染せずに済んだのです。クリニックの指導者であるオリーブ・キソル医師は、神様がその晩奇跡を起こしてくださったと夫婦に伝えました。

「神様は本当にあなたたちを気にかけてくださっているわ。感謝しましょう！」と彼女は言いました。そして、のちに打ち明けたのです。

「人間の理解からすると、ニッキーは死ぬはずでした。神様のみ手が働かれたのです。」

赤ちゃんを失ってから1か月がたち、フランクとニッキーはいまだにトラウマから回復している途中です。しかし、自分たちの経験を神様の愛の証として他の人に伝えています。

「私たちの体験から、神様のみ手が私たちのクリニックで働かれ、人々を助け、救われていると断言できます」とフランクは言います。「もし私の妻が別の病院へ行っていたら、命を落としていたかもしれません。スタッフが祈り、神様はニッキーを助けてくださいました」

この出来事は、アドベンチストでない親戚たちにも影響を及ぼしました。ニッキーの父親は最近フランクにこう言ったのです。「君たちアドベンチスはただ者じゃないね。周りに愛が溢れているよ」そして治療はすべてアドベンチスト・クリニックで受けるようになりました。

今期の13回献金の一部はクリニックで必要とされている設備と建物を改善し、働きを広げるために用いられます。

「どうか、私たちのクリニックを助けてください。特別なお願いです」とフランクは言います。

「多くの人々の人生に触れ、力強い伝道のツールとなることができる場所だからです」

フランクとニッキーは、赤ちゃんを神様のみ手にゆだねることにしました。

「赤ちゃんは失ってしまいましたが、神様を讃美します。妻は生きていて、神様は別の赤ちゃんを授けてくださることができると知っているからです」とフランクは言いました。

コンゴ民主共和国、そして東中央アフリカ支部の人々の身体的、霊的な必要はみなさまの惜しみない13回献金によって満たされます。みなさまの伝道へのご支援を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・YouTubeでフランクとニッキーの動画を見ることができます。[Bit.ly/Franck-Mudibu](https://bit.ly/Franck-Mudibu)
- ・このお話の標準画質の写真をフェイスブック(bit.ly/fb-mq)からダウンロードできます。写真はお話を読む日（このお話は12月28日）の6日前、日曜日にアップされます。
- ・高画質の写真は、ADAMSデータバンクからダウンロードできます。[Bit.ly/Im-Hurting](https://bit.ly/Im-Hurting)
- ・13回献金プロジェクトの高画質な写真をADAMSからダウンロードできます。bit.ly/ECD-projects-2019
- ・伝道地だよりを丸暗記する必要はありませんが、読まなくてもお話ができるようにしましょう。